

医療・福祉研究

2007年・第16号

20周年記念座談会

特集 保健・医療・福祉とヒューマンパワー

マンパワーからヒューマンパワー = 人権のいない手へ

井上 英夫

現代の焦点 外国人介護士受け入れへ

療養病床の削減

福祉用具のとりあげ

医療・福祉問題研究会

巻頭言	蒯 昭三 (2)
-----------	-----------

◎20周年記念

医療・福祉問題研究会の20周年にあたって	(6)
座談会「私と研究会、そして研究会のこれから」	(7)

◎特集／保健・医療・福祉とヒューマンパワー

特集にあたって	編集部 (24)
マンパワーからヒューマンパワー = 人権のにない手へ	井上 英夫 (26)
介護労働者と介護労働現場の課題	曾我 千春 (33)
安心・安全の医療・看護の実現と看護師の役割	野村 鈴恵 (43)
医療制度改革とMSWの現状と役割	伍賀 道子 (47)
地域包括支援センターにおける社会福祉士の役割	寺本 紀子 (51)
社会福祉専門職の養成教育に関する課題と今後の方向性	久保美由紀 (57)

◎論文

精神に障害のある人のピアカウンセリング	加藤真規子 (65)
日本の女性労働と育児休業制度	問谷 元子 (70)
日雇労働者と社会保険の適用	河野すみ子 (83)

◎現代の焦点

看護・介護現場への外国人労働者の受け入れ解禁へ	井口 克郎 (93)
療養病床の削減問題	信耕久美子 (97)
福祉用具の貸与をめぐる現状と課題	広田 敏雄 (101)

◎人物紹介

「紅茶の時間」と水野スウさん	道見 藤治 (105)
----------------------	--------------

◎書評

秋元波留夫、清水寛著『忘れられた歴史はくり返す』	浦田 洋 (109)
--------------------------------	-------------

活動日誌	事務局 (111)
編集後記	編集委員 (113)

医療・福祉研究

2008年・第17号

- 特集 1 現代の格差・差別・不平等と社会保障
今日の貧困と格差を考えるーワーキングプアを中心に
伍賀 一道
- 特集 2 能登半島地震と生活再建
震災を見る視点 井上 英夫
能登半島震災調査中間報告 井口 克郎
- 「731部隊」遺跡と「遺棄化学兵器」を視る 蒔 昭三
- 現代の焦点 医師不足について考える
高齢者介護福祉施設をめぐる今日の諸課題

医療・福祉問題研究会

巻頭言 障害者自立支援法の嵐のなかで 中田なみ子 (2)

◎特集1 / 現代の格差・差別・不平等と社会保障

特集にあたって	編集部 (3)
今日の貧困と格差を考える -ワーキングプアを中心に-	伍賀 一道 (5)
生活保護行政と貧困・格差の拡大	広田 敏雄 (16)
障害者自立支援法と不平等	道見 藤治 (24)
高齢者の孤独死問題と地域福祉	橋爪真奈美 (27)
先進国における途上国からの労働者の搾取と経済発展の不平等 ..	井口 克郎 (40)
ホームレスの「自立支援」に関する一考察	吉原 和代 (50)
格差・貧困と多重債務問題	榊 国男 (57)

◎特集2 / 能登半島地震と生活再建

震災を見る視点	井上 英夫 (62)
能登半島震災と社会保障・経済政策 -能登半島震災調査中間報告-	井口 克郎 (71)
大規模災害時における医療費一部負担金等の減免措置	神田 順一 (84)
私が能登半島地震で学んだこと	黒梅 明 (88)

◎医師と人権

「記住我個」 - 私たちを忘れないで -	筋 昭三 (91)
ノルウエー・ベルゲン市におけるハンセン病医療研究	鈴木 静 (111)

◎論文

スウェーデンにおける利用者主体の社会福祉法制度	高田 清恵 (118)
「三位一体の改革」と地方公共サービス -山梨県南巨摩郡早川町を事例にして-	村田 隆史 (129)
診療報酬支払い方法にかんする史的考察	河野すみ子 (143)

◎現代の焦点

医師不足について考える	斉藤 典才 (153)
高齢者介護福祉施設をめぐる今日の諸課題	国光 哲夫 (160)
スウェーデンに社会保障カードはない	奥村 芳孝 (165)

◎書評

大沢真理『現代日本の生活保障システム』	村田 隆史 (171)
水野スウ『きもちは、言葉をさがしている』	宗像ハツミ (174)

◎文化

金沢・能楽の地からの発信	道見 藤治 (176)
--------------------	-------------

活動日誌	事務局 (179)
編集後記	編集委員 (180)

医療・福祉研究

2009年・第18号

- | | | |
|-------|-----------------------------|-------|
| 巻頭言 | | 井上 英夫 |
| 特集 | 雇用と社会保障 | |
| | ネットワークの力で貧困を克服しよう | 尾藤 廣喜 |
| | 反貧困 - すべり台社会から脱出するために - | 湯浅 誠 |
| | 「派遣村」から見る現代の貧困 | 伍賀 一道 |
| 現代の焦点 | 医療関連死をめぐる問題と第三者機関の設置について | 大野 健次 |
| | 子どもの貧困・格差問題のとらえなおしと教育の対抗的課題 | 河合 隆平 |
| 訪問記 | 韓国・国立小鹿島病院及びドソン「定着農園」を訪ねて | 苜 昭三 |

医療・福祉問題研究会

巻頭言 人権のない手=ヒューマンパワーを育てる …………… 井上 英夫 (2)

◎特集／雇用と社会保障

特集にあたって …………… 編集部 (4)
 ネットワークの力で貧困を克服しよう …………… 尾藤 廣喜 (6)
 反貧困 -すべり台社会から脱出するために- …………… 湯浅 誠 (20)
 「派遣村」から見る現代の貧困 …………… 伍賀 一道 (37)
 タクシー労働者との関わりの中で見えてきたこと …………… 広田 美代 (46)
 生活保護制度の「稼働能力者」と失業対策の交錯
 -旧法の具体的運用と新法制定過程の分析を通じて- …………… 村田 隆史 (51)
 ドイツにおける社会扶助と就労支援 …………… 武田 公子 (62)

◎能登半島地震から2年

能登半島地震被災地の現状と復興に向けての課題 …………… 井口 克郎 (72)

◎現代の焦点

介護福祉士養成を市場に任せて良いか …………… 藤田礎史郎 (83)
 コムスン問題のその後 …………… 曾我 千春 (87)
 医療関連死をめぐる問題と第三者機関の設置について …………… 大野 健次 (92)
 2008年障害者自立支援法を取り巻く動向 -定率(応益)負担に着目して- …… 鈴木 静 (95)
 子どもの貧困・格差問題のとらえなおしと教育の対抗的課題 …… 河合 隆平 (99)

◎現場からの報告

生活困窮者への相談支援活動に取り組んで …………… 寺越 博之 (102)

◎論文

「水準均衡方式」の成立過程
 -生活扶助基準の妥当性はどのように検討されたのか- …………… 富家 貴子 (105)

◎訪問記

韓国・国立小鹿島病院及びドソン「定着農園」を訪ねて …………… 蒔 昭三 (115)

◎レポート

第12回あみの会全国大会in石川に参加して …………… 紅 葉 (123)

◎文化

健康文化としての山のエッセイ …………… 道見 藤治 (125)

◎書評

堤未果『ルポ・貧困大国アメリカ』 …………… 小野 栄子 (126)

活動日誌 …………… 事務局 (128)
 編集後記 …………… 編集委員 (129)

医療・福祉研究

2010年・第19号

巻頭言 金沢で国際ハンセン病政策シンポジウムを開催して 鈴木 静

特集 / 介護保険 10年の検証

介護保険 10年は何をもたらしたか 曾我 千春

ケアマネジャーからみた介護保険の問題点と課題 黒岡 有子

多様化する高齢者の住まいと介護保険 橋爪真奈美

特養ホーム入居申込者の費用負担と生活への影響 末永 睦子

韓国における老人長期療養保険制度の動向

森山 治・森山千賀子

論文 保護申請時の福祉事務所の対応に関する問題点と改善への課題 村田 隆史

自治体病院設置の経緯とその役割 河野すみ子

社会福祉サービス供給主体の変遷 劉 晴暄

—中国「単位」制度の崩壊と「社区」の登場—

医療・福祉問題研究会

『医療・福祉研究』第19号

2010年3月

巻頭言 金沢で国際ハンセン病政策シンポジウムを開催して … 鈴木 静 (2)

◎特集／介護保険10年の検証

- 特集にあたって …………… 編集部 (4)
- 介護保険10年は何をもたらしたか—真の介護保障への課題— …… 曾我 千春 (6)
- ケアマネジャーからみた介護保険の問題点と課題 …………… 黒岡 有子 (15)
- 多様化する高齢者の住まいと介護保険 …………… 橋爪真奈美 (24)
- 特養ホーム入居申込者の費用負担と生活への影響 …………… 末永 睦子 (29)
- 韓国における老人長期療養保険制度の動向 …… 森山 治・森山千賀子 (38)
- 我が国の介護保険制度との比較において—

◎現代の焦点

- ノーマライゼーションプラン金沢2009・
「働く」の策定を通して思ったこと …………… 山本 仁 (45)
- 新しいセーフティネットの現状と問題点 …………… 福井 春夫 (47)
- 生存権裁判東京高裁証人尋問を終えて …………… 富家 貴子 (51)

◎論文

- 保護申請時の福祉事務所の対応に関する問題点と改善への課題 … 村田 隆史 (58)
- 富山県富山市の実態調査結果から—
- 自治体病院設置の経緯とその役割 …………… 河野すみ子 (67)
- 社会福祉サービス供給主体の変遷 …………… 劉 晴暄 (76)
- 中国「単位」制度の崩壊と「社区」の登場—

◎研修報告

- 第8回やどかりの里・人づくりセミナーに参加して …………… 道見 藤治 (82)

◎文化

- 文芸コミューン「みーんな!」の紹介 …………… 橋本季洋光 (86)
- 「私の謡蹟めぐり」を発行して …………… 道見 藤治 (88)

◎私の本棚

- 井上英夫著『患者の言い分と健康権』 …………… 岩田 竹矢 (89)

- 活動日誌 …………… 事務局 (91)
- 編集後記 …………… 編集委員 (92)



特集にあたって

編集部

2010年は介護保険制度施行10年の節目にあたります。そこで本号では介護保険の10年を検証し、真の介護保障へ向けた課題を提起することを目的に特集を組んでみました。介護問題は、介護保険施行後も深刻な状況が続いており、介護保険が作りだした新たな制約も加わって、かえって事態は深刻さを増しています。したがって、あらためて介護保障のあり方に立ち戻り、10年間の実施で浮き彫りとなった問題点を抜本的に解決する制度の見直しが求められています。本特集は、そうした制度見直しへ向けた議論への問題提起を意図しています。特集には、第一線で精力的に活動されている6人の方に執筆していただきました（論文は5本）。

冒頭の曾我千春さんの論文は、介護保険10年を総括的に検証し、真の介護保障への課題を提起しています。介護保険は社会保障構造改革の第一歩として導入され、社会保障の営利化・ビジネス化に途を開き、コムスン事件・グループホームT事件・「静養ホームたまゆら」火災事件など負の産物をもたらしたことをそれぞれの事件の検証をとおして明らかにし、あわせて「常勤換算」での人員配置基準など特異な仕組みによって人材不足と介護労働者の不安定化が加速したことを強調しています。そのうえで、真の介護保障のための課題を、費用負担、介護労働、事業者、制度自体のあり方について提起しています。

黒岡有子さんの論文は、ケアマネジャーの立場から、事例を交えて10年を振り返り、経済的な格差がもたらすサービス利用の格差、支給限度額と利用料が壁となって本来の

相談援助業務ができないケアマネジャー、事業者にとって有利な人を優先し弱い立場の人を取り残す契約制度と事業者、生活が成り立たない介護労働者、介護に携わる職員にすら起きている心の変化など、10年を迎えた介護現場で起きている過酷な現実をリアルに描いています。そして、そうした現実を打開していくための課題を包括的に提起しています。

橋爪真奈美さんの論文は、様々な形態の居住系施設が乱立し多様化が進む高齢者の住まいの現状と問題点を取り上げています。介護保険以降、高齢者施設（住宅）は増大し様々なタイプが登場してきましたが、現実には「居住」と「福祉」とが分断され安上がりでの整備が進められていること、つぎはぎの整備によって医療提供の面での整備も立ち遅れ、診療報酬の改定で矛盾も生じていること、介護療養病床の廃止・医療療養病床の削減によって増大している医療ニーズの高い人たちをねらう悪質な在宅専門医やそれをサポートする医療機関や訪問看護ステーションが存在することなど、居住系施設が医療と介護の変質を招いていることを明らかにしています。

末永睦子さんの論文は、介護費用の負担の実態を、特別養護老人ホームへの入居を申し込んでいる高齢者（入居待機者）へのアンケート及び聞き取り調査をもとに明らかにしています。老人保健施設・療養病床・グループホーム・有料老人ホームでの待機者には、本人の収入を超える費用を負担している人がいること、生活保護受給者は差額室料のない医療保険適用の病院に集中しているなどの実

態、また、在宅を希望しながら費用が捻出できないためにやむをえず老人保健施設の利用となったケース、入院費用の負担を減らすために転院を繰り返すケースなどが取り上げられ、保険外を含む費用負担が要介護高齢者世帯の生活を圧迫している実態を浮き彫りにしています。

最後に、森山治・森山千賀子さんの論文は、日本をしのぐ速度で高齢化が進む韓国の老人長期療養保険制度を取り上げ、日本の介護保険制度との比較を通して特徴と問題点および日本での課題を明らかにしています。国民健康保険公団による一元的管理、全国単一の保険料、特別現金給付の支給、3段階での認定などを内容としていること、現状では公団によるコントロールと公団に対するチェック機能の不在、訪問療養機関の乱立による過剰競争、療養保護士の養成機関の乱立による過当競争、療養保護士の劣悪な処遇、介護支援専門員制度の不在など、多くの問題が存在することを明らかにしています。同時に、日本においても介護支援専門員における業務能力の格差、労働条件の改善の余地、ソーシャル

ワークがしにくい制度上の欠陥などの問題があることを指摘したうえで、介護支援専門員には社会福祉士が最適だが、インフォーマルなサービスも含めて提供できてこそソーシャルワーカーとしての意義があることを強調しています。

介護保険制度の見直しの議論はすでに始まっていますが、本特集が明らかにした多くの問題点が正確かつ十分に認識されているわけではありません。問題の根本に目を向けないで部分的な手直しにとどめられたり、財政事情を理由に改革が先延ばしにされる可能性は小さくありません。しかし、冒頭でふれたように、介護の現場は日々深刻さを増しており、介護心中・介護殺人で死へ追いやられる人が後を絶ちません。これ以上犠牲者を出さないためにも、問題の全面的かつ正確な把握と課題の整理、解決のための適切かつ迅速な対応が求められています。本特集を、そのために活用していただければと思います。研究会の会員、関係者、住民の皆さんの活発な議論と改善に向けた取り組みを期待します。



医療・福祉

2011年・第20号

研究

● 巻頭言

「人体の不思議展」2010年金沢展のその後 神田 順一

● 100回例会記念講演

人権保障と医療・福祉問題研究会 井上 英夫
—人権のない手を育て、人権保障の砦を築く—

● 特集 / 介護保険から介護保障へ

2011年介護保険制度改革案をどうみるか 工藤 浩司
—介護保険を「介護保障」制度にするための提言—

介護保険制度下の介護人材確保政策と介護労働者の地位
井口 克郎

介護保険制度見直しに対する提言

第5回石川県社会保障学校実行委員会

医療・福祉問題研究会

『医療・福祉研究』第20号

2011年3月

第20号発刊にあたって …………… 編集部 (2)

巻頭言 「人体の不思議展」2010年金沢展のその後 …………… 神田 順一 (3)

◎100回例会記念講演

人権保障と医療・福祉問題研究会 …………… 井上 英夫 (7)
—人権のない手を育て、人権保障の砦を築く—

◎特集／介護保険から介護保障へ

2011年介護保険制度改革案をどうみるか …………… 工藤 浩司 (22)
—介護保険を「介護保障」制度にするための提言—
介護保険制度下の介護人材確保政策と介護労働者の地位 …………… 井口 克郎 (30)
介護保険制度見直しに対する提言 …… 第5回石川県社会保障学校実行委員会 (42)

◎論文

「未届」施設と生命権侵害 …………… 曾我 千春 (48)
—「静養ホームたまゆら」火災事件の意味するもの—
菅政権における医療の市場化政策と問題点 …………… 塚原 なみ (56)
生存権裁判福岡高裁判決とその意義 …………… 富家 貴子 (66)

◎現代の焦点

社会福祉と情報技術…………… 村田 隆史 (71)
こころの健康政策実現に向けて…………… 道見 藤治 (75)
医療における民営化—スウェーデンの例—…………… 奥村 芳孝 (78)

◎医療・福祉の現場から

医療機関からみえる「無縁社会」…………… 伍賀 道子 (85)

◎訪問記

岩手県田沢内村「いのちの灯の集い」50周年記念に参加して …… 鈴木 静 (91)

◎書評

寺内順子・寺越博之・平澤章編『国保広域化でいのちは守れない』… 筒井 司郎 (95)

活動日誌 …………… 事務局 (97)

編集後記 …………… 編集委員 (98)



第20号発刊にあたって

『医療・福祉研究』編集部

本号は、第20号の記念号です。同時に、研究例会100回記念号でもあります。研究会が発足したのは1986年、第1回の研究例会は1986年9月に開催されました。『医療・福祉研究』の創刊号が発刊されたのは、それから2年後の1988年7月のことです。研究例会をはじめ、研究会の活動を記録として残し、当日参加できなかった研究会の会員にもその内容を伝えること、同時に研究会以外の人達にも情報発信し、議論を呼び起こすこと、この二つの役割を担うものとして研究会年誌としての『医療・福祉研究』の発刊が始まりました。以来、発行の時期が翌年にずれ込んだり、途中で途絶えそうな時期もありましたが、なんとか継続して20号を迎えることができました。毎号、原稿料なしで多くの方々に執筆していただき（掲載誌3冊の現物給付のみ）、けっして安くはない雑誌を毎号全国の方々に購読していただきました。また、編集アイデアの源である研究例会など研究会の活動にも、じつに多くの方々に報告を引き受けていただき、仕事の合間を縫って研究会に参加していただきました。そうした多くの方々の参加と協力があつたからこそ継続することができました。執筆者、購読者、研究会の報告者・参加者など、研究会を支えていただいたすべての方に、あらためて感謝いたします。

『医療・福祉研究』は、研究と名前が付いておりますが、いわゆる「学術論文」だけではなく、現場での実践報告、仕事のなかでこたわり続けてきた問題を整理した論稿、政府の政策に対する現場からの疑問や批判なども積極的に掲載してきました。研究例会での

報告者には、「論文」を書いた経験のない人にも説得して書いてもらいました。問題に直面し格闘している当事者こそ真の「研究者」、当事者・利用者・国民の視点から考えた文章こそ真の「研究論文」と考えてきたからです。各号の多様な執筆者の顔ぶれはその現れです。『医療・福祉研究』の特徴のひとつは、ここにあると考えています。

本号では、第100回研究例会で井上英夫さんが、研究例会・研究会誌のあゆみを含めた研究会のこれまでの活動、研究会がめざしてきたものとこれからの課題を包括的に取り上げ、20号と100回の記念としてこれ以上ない報告をしていただきましたので、特集号を飾る論稿として掲載しました。井上さんは第1回の研究例会の報告者でもあります。同時に、中心テーマのひとつとして継続的に取り上げてきた介護問題が、見直し論議のなかで喫緊の課題となってきましたので、石川県保険医協会の工藤浩司さん、介護問題で博士号を取得した院生の井口克郎さん、他団体と共同でまとめた提言の三つで特集を組みました。現場研究者、若手研究者、共同提言の組み合わせは、研究会を象徴する構成とも言えます。

研究会誌の編集・発行は、膨大なエネルギーを要します。今の体制でいつまで続けられるか分かりませんが、果たすべき役割があると皆さんから言っていただけの限りは続けるつもりです。本誌を手にとられた皆さんからの忌憚のないご意見、編集へのアイデアと注文、そして何よりも刺激的な原稿をお待ちしています。

医療・福祉

2012年・第21号

研究

● 巻頭言

震災後の貧困への対抗軸

伍賀 一道

● 特集／東日本大震災からの人間と地域の復興・発展について考える

大震災と「住み続ける権利」

井上 英夫

東北被災地の復興と住民参加 井口 克郎・村田 隆史

「3月11日から」をふりかえって 久保美由紀

被災地における障害のある人たちへの支援課題 増田 一世

震災直後の災害支援を通して 大平 良則

金沢大学能登見守り寄り添い隊「灯」の活動 高瀬由佑子

● 総会記念講演

財政危機・財政改革と社会保障

梅原 英治

医療・福祉問題研究会

巻 頭 言 震災後の貧困への対抗軸	伍賀 一道 (2)
-------------------	-----------

◎特集／東日本大震災からの人間と地域の復興・発展について考える

特集にあたって	編集部 (4)
大震災と「住み続ける権利」	井上 英夫 (6)
東北被災地の復興と住民参加 —四川大地震調査からの示唆—	井口 克郎・村田 隆史 (13)
「3月11日から」をふりかえって	久保美由紀 (18)
被災地における障害のある人たちへの支援課題	増田 一世 (22)
震災直後の災害支援を通して	大平 良則 (25)
金沢大学能登見守り寄り添い隊「灯」の活動	高瀬由佑子 (27)

◎総会記念講演

財政危機・財政改革と社会保障 —震災復興財源にも触れて—	梅原 英治 (30)
------------------------------	------------

◎現代の焦点

障害者制度改革による精神保健医療と福祉のゆくえ	道見 藤治 (43)
子どもの貧困と児童福祉改革の動向 —社会的児童養護を中心に—	堀場 純矢 (46)
現行保育制度を守ろう	西 きみ子 (51)
「静養ホームたまゆら」事件以降の動向 —裁判を中心として—	曾我 千春 (55)

◎論 文

健康権、および権利としての医療思想に関する史的研究 —イギリスを対象にして—	鶴田 禎人 (62)
---	------------

◎海外の医療・福祉情報

選択の自由と私立保育園・学校の増加 —スウェーデンの例—	奥村 芳孝 (69)
老人長期療養保険（韓国）の動向	森山 治 (80)

◎書 評

福祉国家と基本法研究会・井上英夫・後藤道夫・渡辺治編著 『新たな福祉国家を展望する—社会保障基本法・社会保障憲章の提言』	石田 道彦 (82)
開沼博著『「フクシマ」論』	田中 純一 (84)

活動日誌	事務局 (86)
------	----------

編集後記	編集委員 (87)
------	-----------



特集にあたって

編集部

本号では、昨年3月11日に起きた東日本大震災について特集を組んだ。震災発生から1年以上経過したが、復興・復旧の歩みは遅く、被災者は依然として厳しい生活を余儀なくされている。そのうえ、仕事も住宅もめどが立たず、先行きの見通しさえもてない状況が続いている。とりわけ今回の震災で目立つのは、政府の対応の遅さ・不適切さである。創造的復興と称して繰り出されてくるのは、経済・産業優先の復興であり、生活の再建、人間と地域の復興は後回しにされている。それどころか、消費税増税や社会保障制度の改悪、TPP参加を目論み、被災者・被災地の苦難を増幅させることさえ実施しようとしている。こうした動きで分かるように、震災からの復旧・復興は、被災者・被災地だけの問題ではなく、今後の日本の社会のあり方を問う全国的な課題である。

今回の特集は、このことを念頭に編集の作業に取り組んだ。同時に、私たちは2007年に能登半島地震を経験し復興・復旧に関わってきた立場にある。また、中国やインドネシアの地震・津波の被害や復興・復旧についても、研究会の会員が調査に取り組み議論してきた経緯もある。それらのことも反映させた特集にしたいと考えてきた。

特集は、震災が投げかけた問題を全体として扱った総論、やや論点を絞った各論、そして被災地での支援活動に関する報告からなっている。冒頭の井上英夫さんの論稿は総論にあたる。ここでは、井上さんが提起し続けてきた「住み続ける権利」が取り上げられ、1年後の被災地の現実から「住み続ける権利」

の断固たる方針の打ち出しと、住み続けることができる地域へと発展させるための健康権・医療保障、社会保障・社会福祉の権利保障、それらを保障する福祉国家の構築が提起されている。

井口克郎さんと村田隆史さん二人の論稿は、中国四川大地震調査から得られた示唆を整理し、そこから東日本大震災の復興の課題を住民参加という視点から論じている。そこで提示されている論点は、第一に集団移転が住民・被災者の声が十分に反映されているか、第二に復興のイニシアティブをだれが握るか、第三はどのようなタイプのボランティアの活動を展開するか等の三点である。それぞれについて井口・村田の二人は、住民・被災者の声を反映した復興、企業主導ではなく政府・企業と住民とのパワーバランスのとれた復興、ボトムアップ型ボランティアによる国・自治体への働きかけの必要を提起している。

原発被災地福島に在住の久保美由紀さんから寄せられた論稿は、支援活動を通して出会った大熊町の人々の暮らしぶりを取り上げ、原発事故の惨さを浮き彫りにしている。県内外59町村と海外にも及ぶ避難生活、点在する仮設住宅と借り上げ住宅での生活、狭い仮設住宅ゆえに別居する三世代家族、子どもを守るために県外に避難し分離された家族など、幾重にも分断された家族の苦悩と現実化する高齢者の孤立化、「何もすることがない」ゆえに「他人の生活に気が向いてしまう」仮設住まいの高齢者、そこにみる距離の近さゆえの息苦しさもたらす孤立化とは逆の困難さ、被災はしていない高齢者が遭遇するスー

パーでの品不足という「被災」など、「見てわかる」被害だけではなく被害にも目を向け支援することの重要性がリアルに提起されている。

増田一世さんの論稿は、障害のある人に焦点をあてた各論にあたる。障害のある人の震災による死亡率は2倍にのぼる。しかも、障害ゆえに不自由な生活を余儀なくされている人も少なくないが、個人情報に壁に阻まれて進まない実態の把握、情報から取り残され被害の大きさも知らないまま一人で数日間在宅で暮らした難聴の人、避難所での暮らしに耐えられず自宅に戻った人、民間で自主的に立ち上げものの無登録ゆえに食糧や物資が届かない福祉避難所、職員不足で開所できない事業所など、先行きが不透明な中で多くの困難がつきまとう生活の立て直しの現実を描き、自己責任ではなく社会の責任で災害対策を構築する必要性を説いている。

大平良則さんと高瀬由佑子さんの論稿は、被災地での支援活動の報告である。大平さんは、石川民医連の災害支援の第二次部隊として宮城県の坂総合病院へ派遣され、支援物資の整理係と避難所訪問の事務局としての支援に関わった。お風呂に入れない大変さと足浴がもたらした安らぎ、避難所の環境の悪さと

ストレスゆえのインフルエンザ感染をめぐる不穏な発言など、避難所で長く生活することの負担の大きさと継続した支援の必要性を指摘している。高瀬さんは、大学の見守り寄り添い隊「灯」のメンバーとして陸前高田市を何度も訪れ、足湯傾聴活動に取り組んできた。その活動が能登半島地震での被災地支援から始まったこと、いまでは別の地区でも活動するまでになり全国交流も行われていること、足湯での被災者の「つぶやき」がニーズを知る大切な機会であり具体的な問題解決につながることもあることなどを紹介したうえで、東北の被災者の「つぶやき」に出てくる津波、体調変化、生活用品の不足、今後の生活不安などに、不安の大きさとニーズの変化が見出されること、そのことに気付くためにも同じ地域に連続して関わることの重要性を指摘している。

冒頭に触れたように、震災復旧・復興をめぐる対抗は厳しさを増している。原発再稼働をめぐる動きがその象徴である。私たちは多くの震災から学び、人間復興こそ基本に据えられなければならないとの確信をもち議論してきた。今回の特集をさらに議論を広げる契機としたい。研究会内外からの意見と問題提起を期待する。